

Babyの森



あかちゃんゆったり 大人ものんびりあかちゃんひろば Babyの森へようこそ

今の日本における乳児の暮らしと育ちに主眼を置き、大博覧会の会場に0歳からの文化的権利の保障の場として「Babyの森」を開催。

1

ベビーシアター終演後、あかちゃんはおそび、大人は交流しあう時間でした。

ベビーシアター①

ベビーシアターは、あかちゃんと大人がともに体験する演劇です。0歳～3歳の子どもと親を対象に発達段階を踏まえた4作品を1日1作品上演。あかちゃんと大人と一緒に楽しめる機会を提供しました。あかちゃんが演者の歌や動きを見つめ、一瞬、身体が止まります。そして、お母さんやお父さんの方を振り向いて「あーあー」と話します。ハイハイする赤ちゃんもいました。こんなに小さな我が子が何かを感じ取っていることに大喜びでした。



日時：8月1日(木)つなぐうたの森
(リーフ企画)
対象：0～3歳



日時：8月2日(金)かぜのうた
(表現教育研究所)
対象：0～24か月



日時：8月3日(土)ハイハイ、ごろ～ん。
(劇団風の子九州)
対象：8～14か月



日時：8月4日(日)ベビーシアター
「もりのなか」(山の音楽舎)
対象：0～24か月

乳幼児が文化芸術に触れることは「まだ見る力がない」と思われがちです。しかし、ベビーシアターをとおして、乳幼児には、見る力や感じる力があることを再認識しました。その場をつくるためには、安心感がある場作りや大人の関わり方も重要だと学びました。乳幼児が舞台芸術に触れる機会を作るためにも、これからもベビーシアターを続けていきたいと思えます。

あかちゃんひろば ②③④

会場のアートサロンは、優しい自然色の柔らかい不織布、布、リボンでゆったりとした空間となり、親子はリラックスして参加していました。連日、アーティスト(演者)のパフォーマンスやわらべうたなどがありました。また、子どもが自分の好きな絵本や木のおもちゃで遊ぶ姿もあり、大人同士が笑顔で会話がはずむ素敵な空間でした。
日時：8月1日(木)～4日(日) 11:30～15:30(最終日は14:30まで)

3

サロントーク

このあかちゃんひろばの中で、子ども全国フォーラム・乳児専門委員の一人が中心となりサロントークを行いました。このひろばにいるお母さんたちや子育て支援者、演者が車座になって、「あかちゃんを取り巻く世界」をテーマに自由に話をしました。ゆったりとした時間の中で自由に話すことで温かい空気に包まれ、意見を述べる事が能動的な関わりの一つとなり、有意義な時間となりました。
日時：8月1日(木)～3日(土) 14:30～15:30



ハレノワの森

3つのプログラム

① ぬりえが映像になる!たのしいリッタのまち

岡山のデザイン会社「UPPER VILLAGE」のSDGs推進乳幼児向けオリジナルキャラクター「リッタ」を素材にしたワークショップです。会場でリッタの塗り絵をし、その塗り絵をその場でスキャンし仮装空間「リッタのまち」にそれぞれのリッタを登場させ、後日youtube動画に編集して配信するというデジタルコンテンツを活用した取り組みでした。
日時：8月3日(土) 10:30～15:30 / 4日(日) 10:30～13:30 会場：第5練習室



② やさしい日本語でハレノワ劇場ツアー

やさしい日本語とは「難しい言葉を言い換えるなど、相手に配慮したわかりやすい日本語」のことです。やさしい日本語のナビゲーター養成講座を受けた市民が、当日参加する市民に対しやさしい日本語を用いてハレノワにあるアート作品を紹介しました。企画を通じてより安心して来場できる環境をつくること、ハレノワとアートの関係性を考え直すきっかけとすることを目的に取り組みました。
日時：8月3日(土) 10:30～15:30 / 4日(日) 10:30～13:30



③ '24テープ!TAP!てーぷ!@ハレノワ

岡山県立美術館が実施している「じゅにあ・ミュージアム・Lab」の取り組みをハレノワ中劇場にて行いました。当日はセロテープ、ビニルテープ、紙テープの3種類のテープを活用、それぞれのテープの特性を生かし、中劇場をアートの視点で装飾しました。
日時：8月4日(日) 14:30～16:30 会場：中劇場



開催時の8月上旬は灼熱の毎日でした。これからますます夏の時期、子どもたちは「屋内で遊びを創造する」ことを強えられるようになるでしょう。ハレノワの森は鑑賞機能にとどまらず屋内遊びを創造する新たな形や方向性を劇場(theater)が担うという可能性を一定程度示すことができたとします。



知ろう、話そう、学ぼう!

まなびの森

シンポジウム 8月2日(金) 13:00～15:00

佐藤信さんに聞く!
「旅する大博覧会のこれから」
子どもと舞台芸術大博覧会実行委員長の佐藤信さんが今、なぜ子どもたちに寄り添うのか、そして大博覧会の実行委員長を続けてきているのかを話されました。「黒テント時代にお客さんだった若者が子どもを連れてくるようになった。だから彼らに寄り添うのは当然だった」と語られ、今の佐藤さんの活動までつながっていることを教えてくださいました。そして、人間の持っている本質的な力、子どもたちの生きる力を信じること、子どもたちと共にあることを大切に、大博覧会の旅を続けていこうと話されました。

連携シンポジウム

8月2日(金) 15:30～17:30
「すべての子どもたちに豊かな文化環境を～遊びと公共の機能性を探る～」
こどもアートACTION主催の会場とオンラインによるハイブリット型シンポジウムでした。登壇は、岡山芸術創造劇場ハレノワの渡辺弘劇場長と真庭市立中央図書館長であり、ハンズオン埼玉等で活動されている西川正さん。聞き手は、こどもアートACTION代表の久保田力さんでした。「公共と遊び」をテーマに、これまでの活動事例やエピソードを交えながら、公共のとらえ方、責任の問題、パブリックな場所になるためにはどうしたら良いかなど、様々な角度から話されました。会場からも質問や意見が活発にされ、あっという間の2時間でした。